

令和7年度 福岡市 英語教育改善プラン

目標

主体的にコミュニケーションを行い、他者と協働しながらよりよい社会を切り拓く
福岡市の子どもたちの育成

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CAN-DOリスト形式による学習到達目標を全学校で設定している。
令和5年度100%
令和6年度100%

- ①言語活動のさらなる充実に
向けた授業改善が必要である。

- ②児童の学習者用デジタル教科書の活用について、学校間の差が見られる。

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

- ①教育課程説明会をはじめ校内外研修、報告書の提出を示したことで、学習到達目標を理解し、共有できた。

- ①校内外研修等を通して、外国語教育の目標やALTの効果的な活用については共有できているが、言語活動を通して指導することについて理解が十分ではない。

- ②教師用デジタル教科書の提示だけでなく、児童による活用について、実践例が少なく周知や共有が十分ではない。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①CAN-DOリスト形式による学習到達目標の活用
の推進

- ・6月にCAN-DOリストの活用調査を行う。
- ・CAN-DOリスト活用についての研修を行う。
- ・文部科学省作成の手引きの周知を行う。

- ①言語活動の充実に向けた授業改善の推進

- ・外国語教育における言語活動の在り方について、8月にある教育課程説明会や職員研修等を通して指導助言を行う。
- ・4月・7月にある英語専科教員や外国語担当教員の研修等で指導助言を行う。
- ・各小学校において小学校外国語活動・外国語支援事業のよる校内研修会の実施を通知し、指導助言を行う。

- ②児童の学習者用デジタル教科書の活用の推進

- ・7月の外国語担当教員等研修や8月の教育課程説明会で、モデル校や実践例について周知する。
- ・校内研修等での活用について周知する。

令和 7 年度 福岡市 英語教育改善プラン

主体的にコミュニケーションを行い、他者と協働しながらよりよい社会を切り拓く 福岡市の子どもたちの育成

目標

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：65.9%⇒R7：68%）

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が増加した。

(R5:65.1%⇒R6:65.9%)

②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、話すこと（やりとり）の言語活動の増加が見られる。

(R5:64.1%⇒R6:70.3%)

未だ改善が必要な点

①授業でのICT活用について、端末を活用した発表・やり取りの割合が減少した。

(R5:98.6%⇒R6:97.1%)

②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、読むことの言語活動が、全国平均に比べ伸びていない。

(R5: +0.3%⇒R6: +0.2%)

2. 要因分析

①毎年、中 3 対象に、英語チャレンジテスト（英検IBA）を実施し、授業改善につながり、英語力が向上したと考えられる。

②スピーチコンテストを実施し、スピーチだけではなくスピーチ後のQ&Aに向けて、やりとり等を充実させる授業の改善を提案したことで、言語活動が増加したと考えられる。

①授業でのICT活用について、学校間の差が見られる。また、活用例などの研修が少ないことが要因と考えられる。

②質問調査の結果から、どの言語活動も増加傾向にあるが、英検IBAの結果でも「読む」力が伸びておらず、言語活動のバランスが必要と考える。

3. 目標を達成するための施策・事業

②スピーチコンテストの推進

- ・全学校が予選を行い、代表 1 名を選出するもの
- ・4月に事業説明会にて、スピーチ指導について日頃の授業から取り組めるものを提示する。
- ・7月にスピーチコンテストを開催し、上位者スピーチ動画を市教委クラウドに共有し、全学校のスピーチ指導に生かす。
- ・8月の教科研修会で、「やりとり」などの言語活動を充実させる授業改善について周知する。

①ICT活用の推進

- ・7月のICT研修会で、生徒用デジタル教科書を活用した授業公開を行い、活用例について研修を行う。
- ・8月の教科研修会で、端末を活用した発表・やり取りや、メール・チャットでのやり取りなど、実践例等の研修を行う。

②ALT参画の推進

- ・10月の公開授業研修会で、ALTと共に、言語活動を充実させた授業改善を提示する。
- ・年間 7 回のALTの研修において、昨年度は生徒の「聞く」力の向上を目指した研修を行ったが、今年度は生徒の「読む」力向上のための取り組みを充実させる。

令和7年度 福岡市 英語教育改善プラン

目標

グローバル社会における人材育成のため、授業改善と教師の英語指導力の育成の推進
○CEFR A2/B1レベル（R6：A2以上50.0%、B1以上13.7% ⇒ R7：A2以上50.0%、B1以上22.0%）相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合

- ☐ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
- (パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①授業における、教師の英語による言語活動の割合の増加
50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合
(R5:11.1% ⇒ R6:39.3%)
- ②生徒の英語力向上
CEFR A2相当以上生徒
・全体 R5:41.5% ⇒ R6:50.0%
(普通科R5:43.6% R6:50.0%)
(総合学科R5:83.8% R6:100%)
(国際教養学科R5:100% R6:100%)
(専門学科R5:1.5% R6:6.6%)

- ①CEFR B2以上を取得している教師の割合
・全体 R5:97.5% ⇒ R6:85.0%
- ②グローバル社会における人材育成
CEFR B1レベル相当以上生徒
・全体R5:14.0% R6:13.7%
(普通科R5:16.8% R6:1.0%)
(総合学科R5:24.2% R6:42.3%)
(国際教養学科R5:45.0% R6:25.0%)
(専門学科R5:0.5% R6:0%)

2. 要因分析

- ①②
平成30年告示学習指導要領で求められる英語指導について、理解の深まり、指導方法の改善

英語の授業におけるICT機器の活用状況の向上
具体的内容9項目の平均値の向上
R5:52.8% ⇒ R6:66.7%

- ①生徒の実態に合わせた、4技能の向上のための現状理解と取組み、授業改善の不足
- ②特にグローバルに活躍することが期待される層の拡充について、個別最適化された指導の取組みの少なさ

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②
(1)全ての英語科目における生徒の主体的な言語活動の推進
- (2)ICT機器を活用した、生徒の主体的・対話的で協働的な学びの推進
- (3)生成AIを活用した個別最適化された指導の充実
- ①
(1)民間教育機関に教員を派遣し、教員の指導力向上
- (2)高等学校一斉基本研修、教育課程研究集会等での指導方法の事例共有
- ②
(1)第4期教育振興基本計画「グローバル社会における人材育成」について、内容の周知と目標設定
- (2)各学校における国際交流や海外研修等（対面・オンライン両方）の積極的な実施。英語を使用した異文化交流機会の創出と内容の充実。

福岡市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	55	41.5	45	50.0	50		55		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	20	14	18	13.7	22		25		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	70	53.6	55	46.4	58		59		60	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	85	60	62	28.6	63		64		65	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	70	0	40		50		60		70
		公表（％）	70	0	20		3		40		50
		達成状況の把握（％）	50	0	20		30		40		50
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	95	97.5	98	85.0	98		98		98	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	75	11.1	15	39.3	25		30		40	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	70	65.1	70	65.9	75		75		80	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	72	67.5	75		75		80		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	100	82.5	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100		100		100		100	
		公表（％）	40	53.6	60		60		70		70
		達成状況の把握（％）	80	75.4	80		80		90		90
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	55	35.9	55	40.1	55		55		55	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	80	47.6	80		80		80		80	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100		100		100		100	
		公表（％）	60	52.1	60		60		60		60
		達成状況の把握（％）	90	88.2	90		90		90		90